

決算補足説明資料

2022年度 3-11月期 業績概要

注意事項

- **2022年度より地域別の情報（売上収益,受注）の算出根拠を、従来の仕向地（お客さまの所在地）別から安川グループ各社の所在地別に変更しています。これにより、2021年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。（P.19参照）**
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2022年3月1日～2022年11月30日)

1. 2022年度 3-11月期 連結業績

- 2022年度 3-11月期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2022年度 3Qの取り組み

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

- 2022年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析

3. 参考資料

- 仕向先から所在地への変更による過年度の組替表示（売上収益,受注）
- 設備投資・研究開発費,為替レート,感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ A Cサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ PMモータ など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ 大型風力発電用電機品 など



その他

- ・ 物流サービス

など

1. 2022年度 3-11月期 連結業績

2022年度 3-11月期 実績

- ・ 半導体・電子部品市場の需要が高水準で推移し、自動車市場においてもEV化やリチウムイオン電池関連などの投資が拡大
- ・ 部品の需給逼迫の緩和などによって生産が回復し、好調な受注を売上につなげ増収増益

	2022年度	2021年度	前 年 同 期 比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
売 上 収 益	4,075億円	3,574億円	+501億円	+14.0%
営 業 利 益	481億円	399億円	+82億円	+20.5%
税 引 前 利 益	511億円	412億円	+98億円	+23.9%
親会社の所有者に帰属する 四 半 期 利 益	372億円	308億円	+64億円	+20.8%

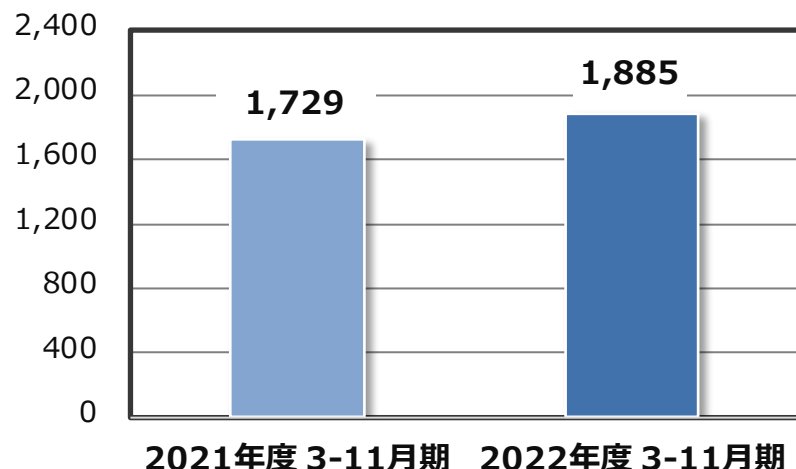
2022年度 3-11月期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールは米国を中心に設備投資が継続し増収も、
原材料・物流費の高騰影響などにより減益
- ・ ロボットは、EV化やリチウムイオン電池関連などの需要拡大により大幅な増収増益

	2022年度 3-11月期		2021年度 3-11月期		前年同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
売上収益	4,075		3,574		+501	+14.0%
モーションコントロール	1,885		1,729		+156	+9.0%
ロボット	1,618		1,310		+308	+23.5%
システムエンジニアリング	348		384		▲36	▲9.3%
その他	224		151		+73	+48.6%
営業利益	481	11.8%	399	11.2%	+82	+20.5%
モーションコントロール	261	13.9%	297	17.2%	▲36	▲12.0%
ロボット	177	10.9%	117	9.0%	+59	+50.3%
システムエンジニアリング	8	2.3%	13	3.4%	▲5	▲38.4%
その他	6	2.6%	3	1.8%	+3	+114.2%
消去または全社	30	-	▲31	-	+61	-

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



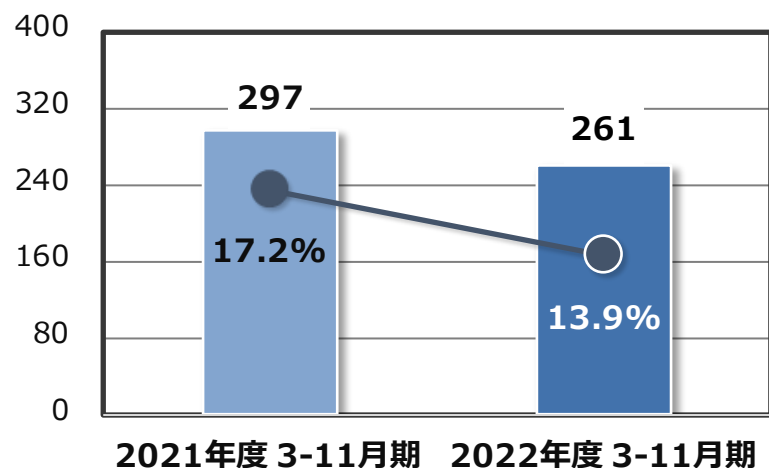
【売上収益】

- ACサーボは、米国・日本などで半導体・電子部品向けが高水準。中国ではニューインフラ関連などの成長市場で需要が堅調も、一般産業において設備投資が低迷
- インバータは、米国オイル・ガス関連の需要が大幅に増加。グローバルで脱炭素化（カーボンニュートラル）を意識した省エネ化の投資が加速

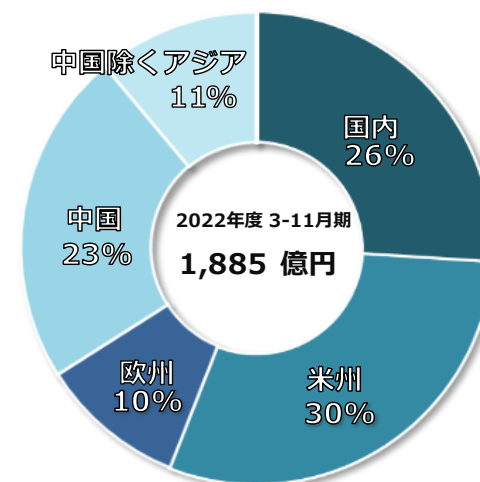
【営業利益】

- 原材料・物流費の高騰影響などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)

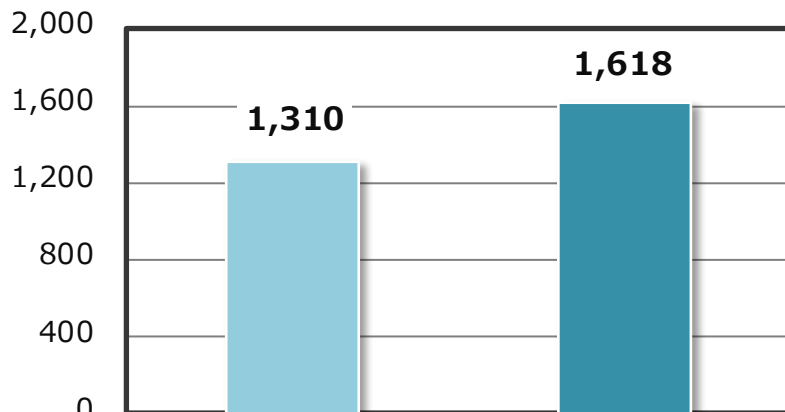


所在地別売上収益構成比



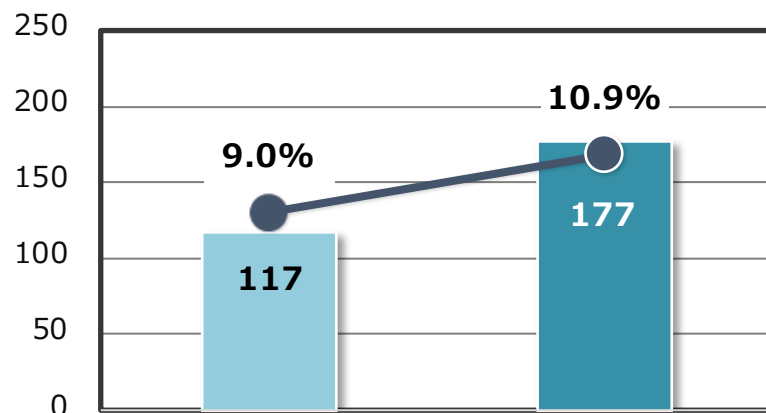
主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



2021年度 3-11月期 2022年度 3-11月期

営業利益(億円)・営業利益率(%)



2021年度 3-11月期 2022年度 3-11月期

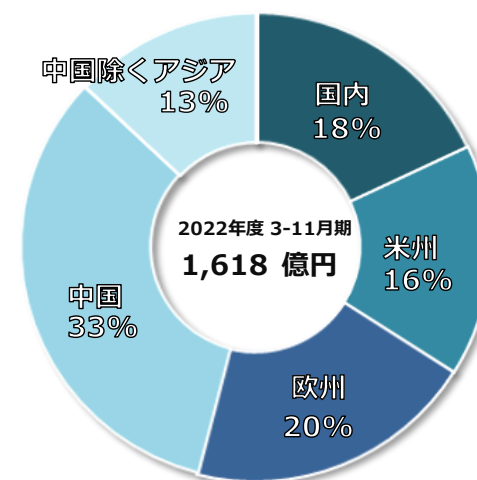
【売上収益】

- 自動車市場ではグローバルでEV化が加速し、新規の設備投資が増加するなど、販売は好調に推移
- リチウムイオン電池関連の生産設備の投資を拡大する動きが継続し、食品市場などの一般産業分野でも生産の高度化・自動化を目的とした投資が活発化
- 半導体向けロボットの販売も日本・韓国などで堅調に推移

【営業利益】

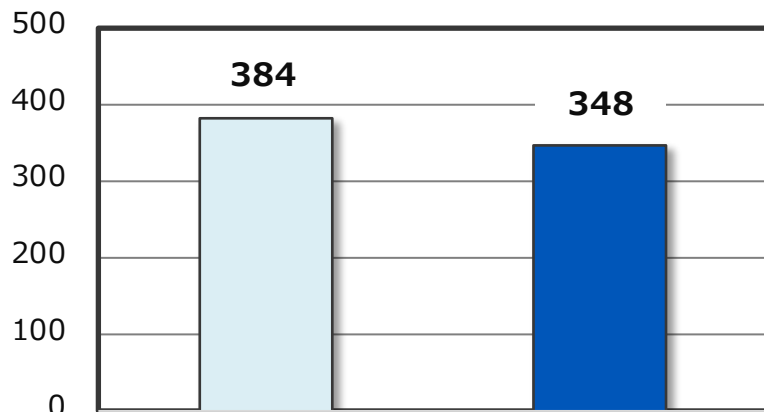
- 売上の拡大により営業利益は大幅に増加

所在地別売上収益構成比



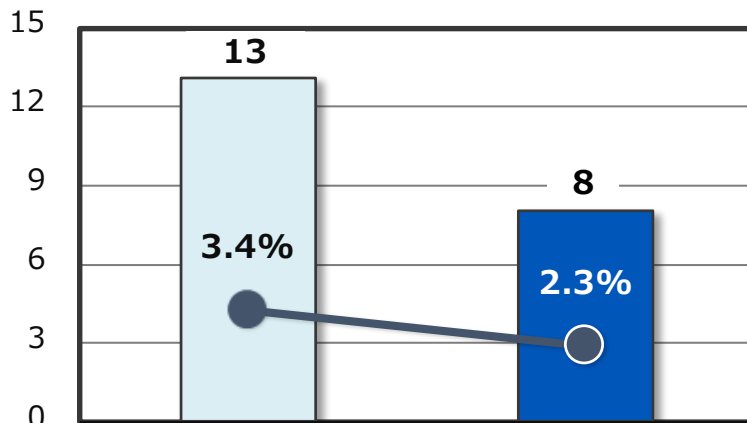
主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



2021年度 3-11月期 2022年度 3-11月期

営業利益(億円)・営業利益率(%)



2021年度 3-11月期 2022年度 3-11月期

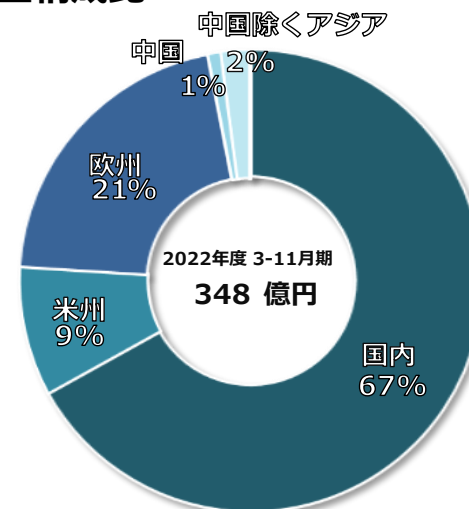
【売上収益】

- 鉄鋼プラントや上下水道用電気システム関連の売上は伸び悩む
- 太陽光発電用パワーコンディショナの販売は伸長

【営業利益】

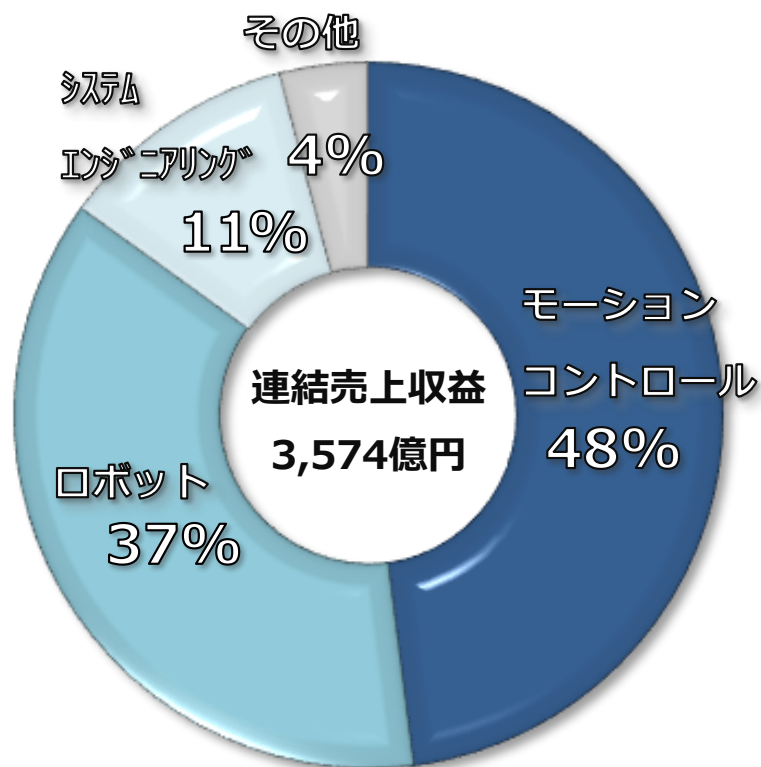
- 経費抑制を徹底したものの、売上の減少などにより減益

所在地別売上収益構成比

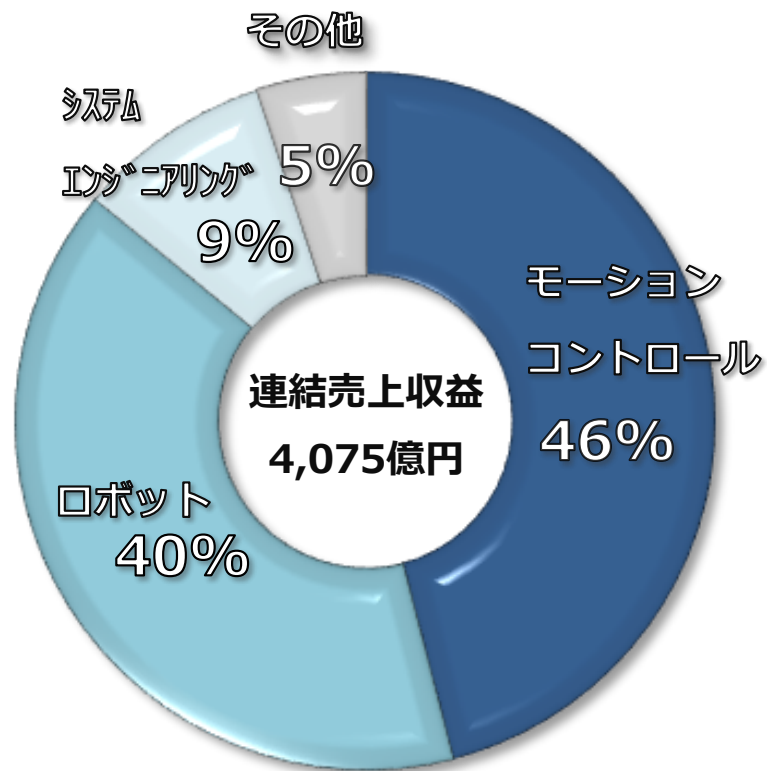


事業セグメント別売上収益構成比

2021年度 3-11月期



2022年度 3-11月期



所在地別売上収益（2021年度 3-11月期 → 2022年度 3-11月期）

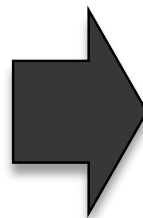
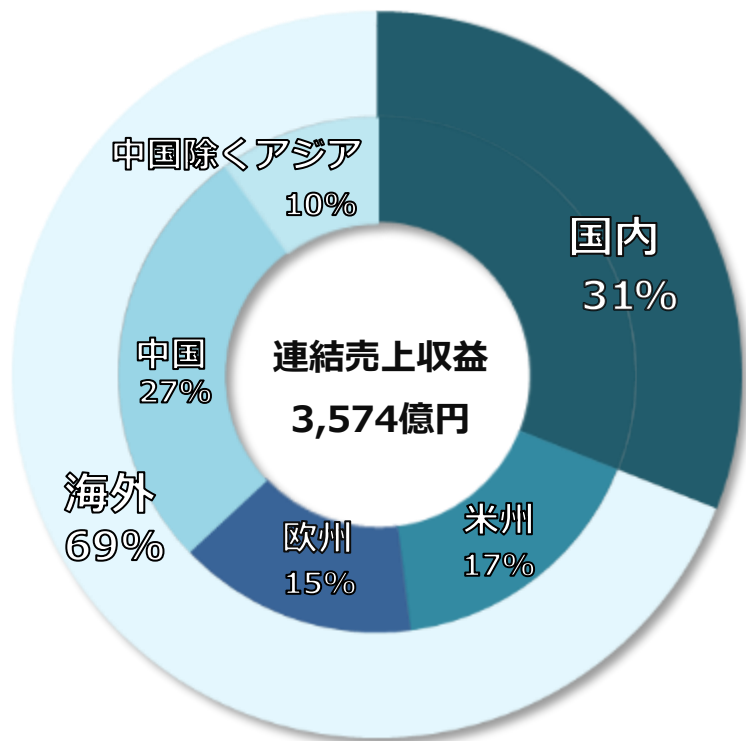
- ・米州を中心にすべての地域において売上収益は前年同期比で増加

	2022年度 3-11月期 実績	2021年度 3-11月期 実績	前 年 同 期 比	
			増減額	増減率
売上収益	4,075	3,574	+501	+14.0%
国内	1,168	1,100	+68	+6.2%
海外	2,908	2,474	+434	+17.5%
米州	844	596	+248	+41.6%
欧州	597	556	+41	+7.5%
中国	1,051	964	+87	+9.1%
中国除くアジア	415	358	+57	+15.9%

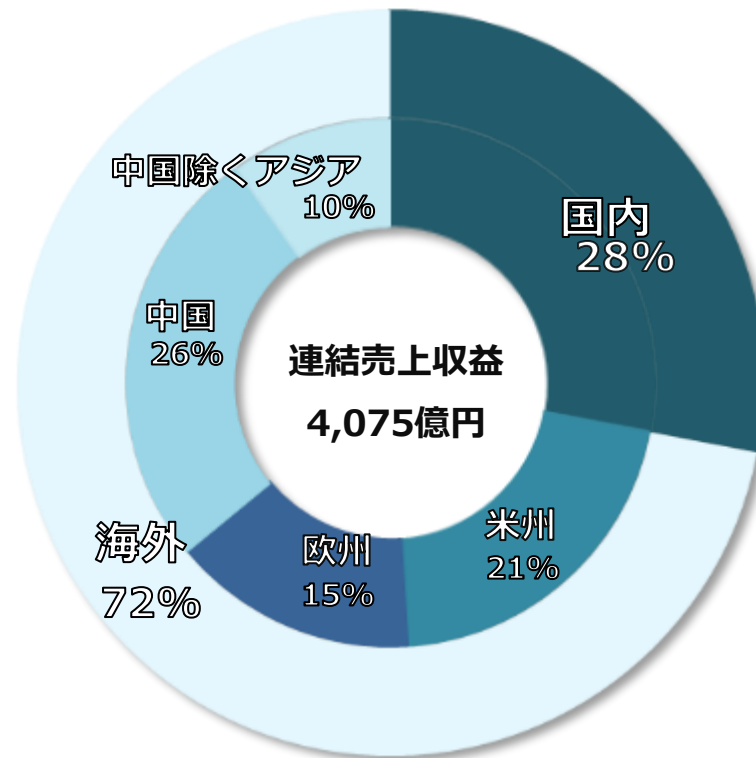
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別売上収益構成比

2021年度 3-11月期



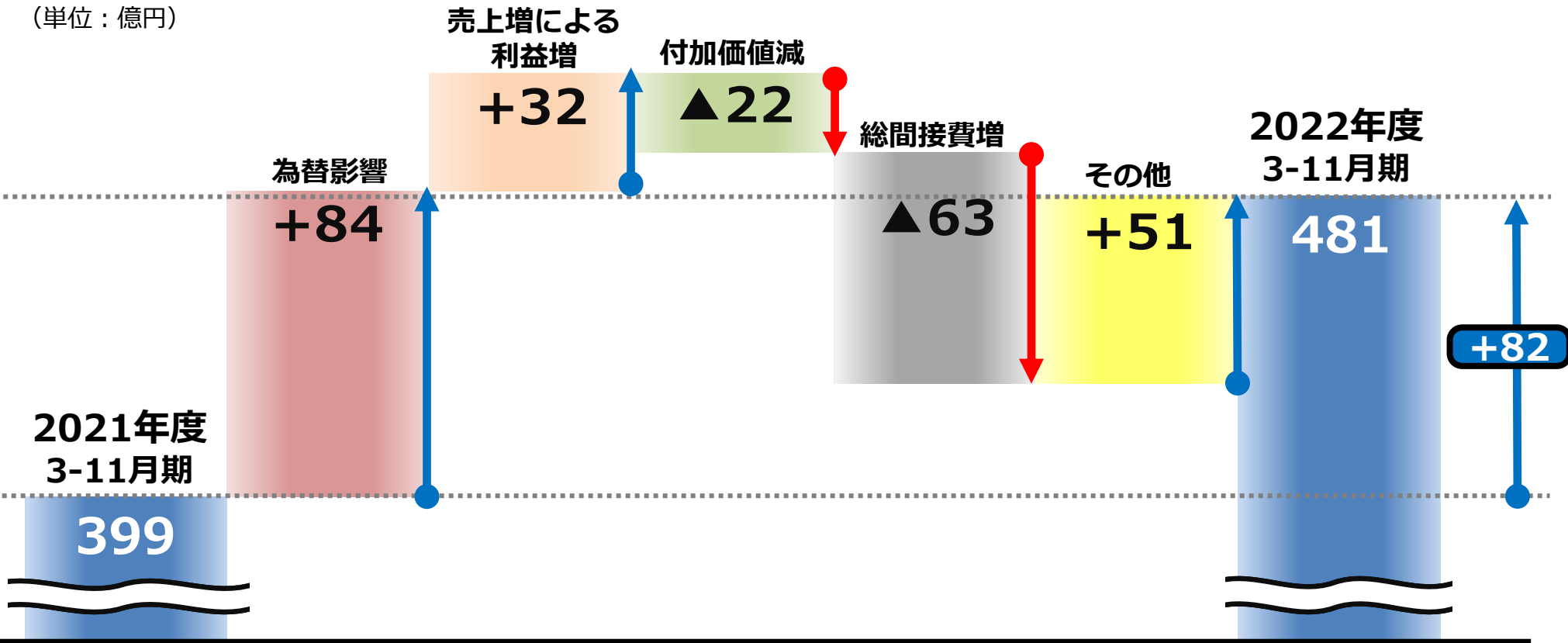
2022年度 3-11月期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

営業利益増減要因分析（2021年度 3-11月期 → 2022年度 3-11月期）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+38	▲22	▲30	▲26	+5
ロボット	+46	+58	+4	▲49	▲0
システムエンジニアリング	▲0	▲9	▲0	+8	▲1
その他	+0	+5	+5	+5	+46

2022年度 3Qにおける取組み

➤ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

➔ 生産力の強化

- ・内製化率向上を目的としたロボットの部品生産を行う
機械加工工場の着工(福岡県北九州市)
- ・「安川(常州)機電一体化系統有限公司」の量産立ち上げ完了



ロボットの機械加工工場(完成イメージ)

➔ 販売力の強化

- ・数値化・プログラミング化が困難な熟練作業を容易にロボット化する
『MOTOMAN-Craft』の販売開始(2022年11月)
- ・国際展示会「SEMICON Japan 2022」にて半導体パッケージの進化に伴う
後工程の変化に対応した最新ロボットを参考出展



MOTOMAN-Craft 教示デバイス

➤ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・グループ経営理念の理解深化を狙った階層別研修プログラムの
継続実行
- ・一人ひとりが担う役割と職務の大きさをベースにした
新報酬制度の適用開始



SEMICON Japan 安川電機ブース

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

2022年度 通期 見通し

- ・ 4Q想定為替レートを円高方向に修正したものの、部品の需給逼迫の緩和による生産増加などを織り込み、2Q決算発表時（2022/10/7発表）の通期見通しを据え置く

	2022年度 見通し	2021年度 実績	前 年 同 期 比	
			増減額	増減率
売 上 収 益	5,500億円	4,791億円	+709億円	+14.8%
営 業 利 益	700億円	529億円	+171億円	+32.4%
税 引 前 利 益	720億円	554億円	+166億円	+30.0%
親会社の所有者に帰属する 当 期 利 益	515億円	384億円	+131億円	+34.3%

2022年度 通期 見通し（セグメント別）

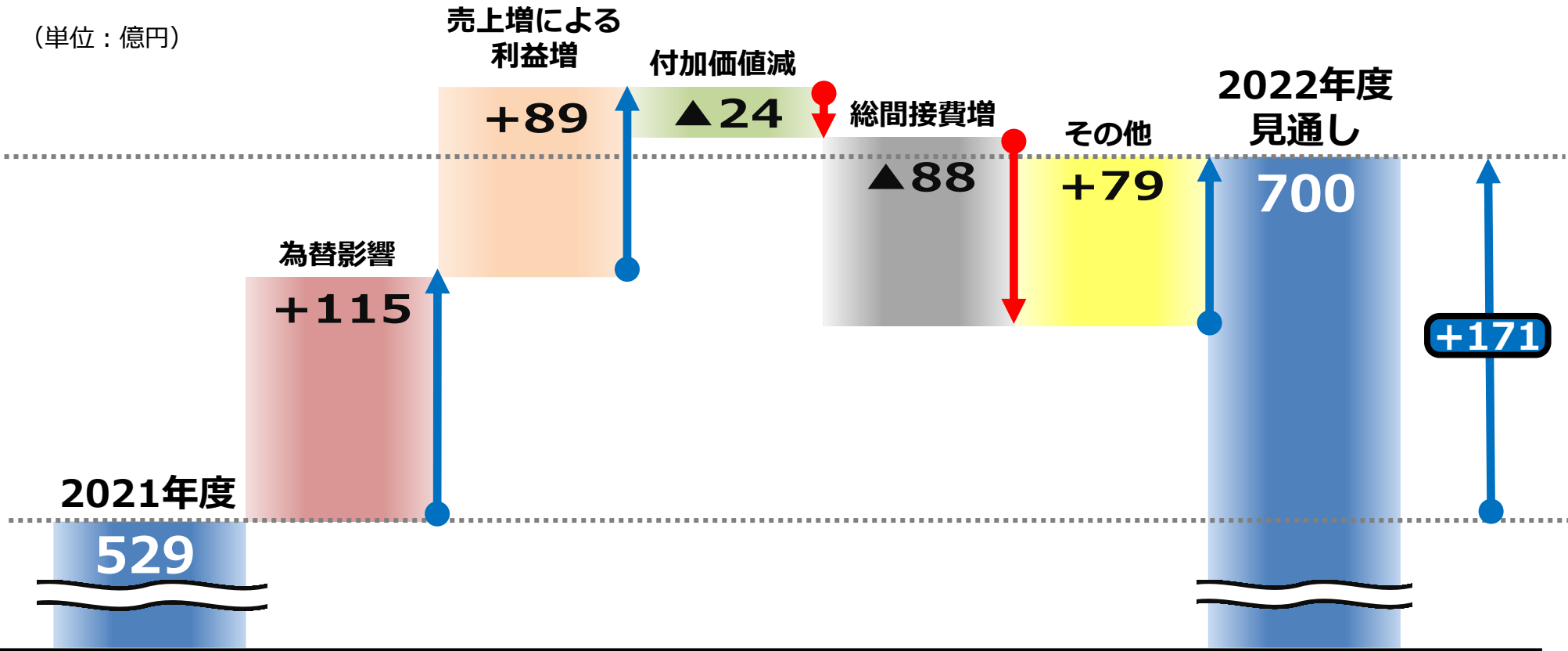
・セグメント別の通期見通しについては、足元の需要動向を考慮し修正

(単位：億円)	2022年度		2021年度		前 年 同 期 比		2022年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し※	利益率
売 上 収 益	5,500		4,791		+709	+14.8%	5,500	
モーションコントロール	2,520		2,273		+247	+10.9%	2,500	
ロボット	2,235		1,787		+448	+25.1%	2,255	
システムエンジニアリング	490		523		▲33	▲6.2%	490	
その他	255		209		+46	+22.1%	255	
営 業 利 益	700	12.7%	529	11.0%	+171	+32.4%	700	12.7%
モーションコントロール	371	14.7%	382	16.8%	▲11	▲2.8%	354	14.2%
ロボット	269	12.0%	172	9.7%	+97	+56.0%	292	12.9%
システムエンジニアリング	25	5.1%	21	4.1%	+4	+17.6%	22	4.5%
その他	17	6.7%	4	1.8%	+13	+342.6%	14	5.5%
消去または全社	18	-	▲51	-	+69	-	18	-

※ 2022年10月7日 FY22 2Q決算発表時

営業利益増減要因分析（2021年度 → 2022年度見通し）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+49	+8	▲47	▲43	+22
ロボット	+67	+94	+9	▲74	+0
システムエンジニアリング	▲1	▲20	+6	+20	▲2
その他	▲1	+6	+8	+9	+59

3. 参考資料

仕向先から所在地への変更による過年度の組替表示（売上収益・受注, 2021年度実績）

2021年度（仕向先から所在地への変更後）								変更 影響額 (通期)
(単位：億円)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
売上収益	1,190	1,209	2,399	1,175	1,217	2,392	4,791	-
国内	358	378	735	364	402	766	1,502	+20
海外	832	831	1,664	810	815	1,625	3,289	▲20
米州	184	206	390	206	211	417	807	+54
欧州	175	187	362	194	182	376	737	+20
中国	357	318	676	288	297	585	1,261	▲33
中国除くアジア	116	120	236	122	126	248	484	▲57
その他	0	0	0	0	0	0	0	▲5

2021年度（仕向先から所在地への変更後）								変更 影響額 (通期)
(単位：億円)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
受注	1,391	1,377	2,768	1,430	1,529	2,960	5,728	-
国内	388	440	828	506	487	993	1,821	+48
海外	1,003	937	1,940	925	1,042	1,967	3,907	▲48
米州	239	252	491	257	315	572	1,063	+93
欧州	230	220	450	229	253	482	932	+29
中国	395	336	731	299	322	621	1,352	▲72
中国除くアジア	139	130	268	140	152	292	560	▲98
その他	0	0	0	0	0	0	0	+0

設備投資・研究開発費, 為替レート, 感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2020年度（実績）	2021年度（実績）	2022年度（計画）
設備投資額	227.9	241.8	250.0
減価償却費	160.9	174.8	195.0
研究開発投資	178.5	181.8	190.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2020年度（実績）				2021年度（実績）				2022年度（想定）			
	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期
対 米ドル	106.5	104.3	104.7	106.0	110.5	114.6	113.5	111.5	134.5	130.0	137.1	133.5
対 ユーロ	121.6	126.6	125.3	122.8	130.7	129.7	130.1	130.4	139.1	140.0	142.0	139.4
対 元	15.38	16.08	15.87	15.55	17.12	18.02	17.77	17.33	19.80	19.00	19.61	19.60
対 ウォン	0.090	0.095	0.093	0.091	0.096	0.096	0.096	0.096	0.103	0.100	0.102	0.102

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2022年度_通期 想定)	
	売上収益	営業利益
米ドル	11.7	2.1
ユーロ	8.2	1.2
元	14.1	4.2
ウォン	2.9	1.2

[注] 通期における為替相場の安定が前提

B/S構造の推移

- ・ サプライチェーン強靱化のための戦略的な在庫積み増しや、サプライヤーへの支払いサイトの短縮により、フリーキャッシュフローは一時的に悪化

2022年2月28日時点			
➢ 親会社所有者帰属持分比率	52.1%	➢ 棚卸資産	1,318億円
➢ 親会社所有者帰属持分	2,912億円	(回転月数)	(3.3ヶ月)
➢ 有利子負債	680億円	➢ ROE	14.3%
➢ D/Eレシオ	0.23	➢ ROIC	13.3%
(ネットD/Eレシオ)	0.04		



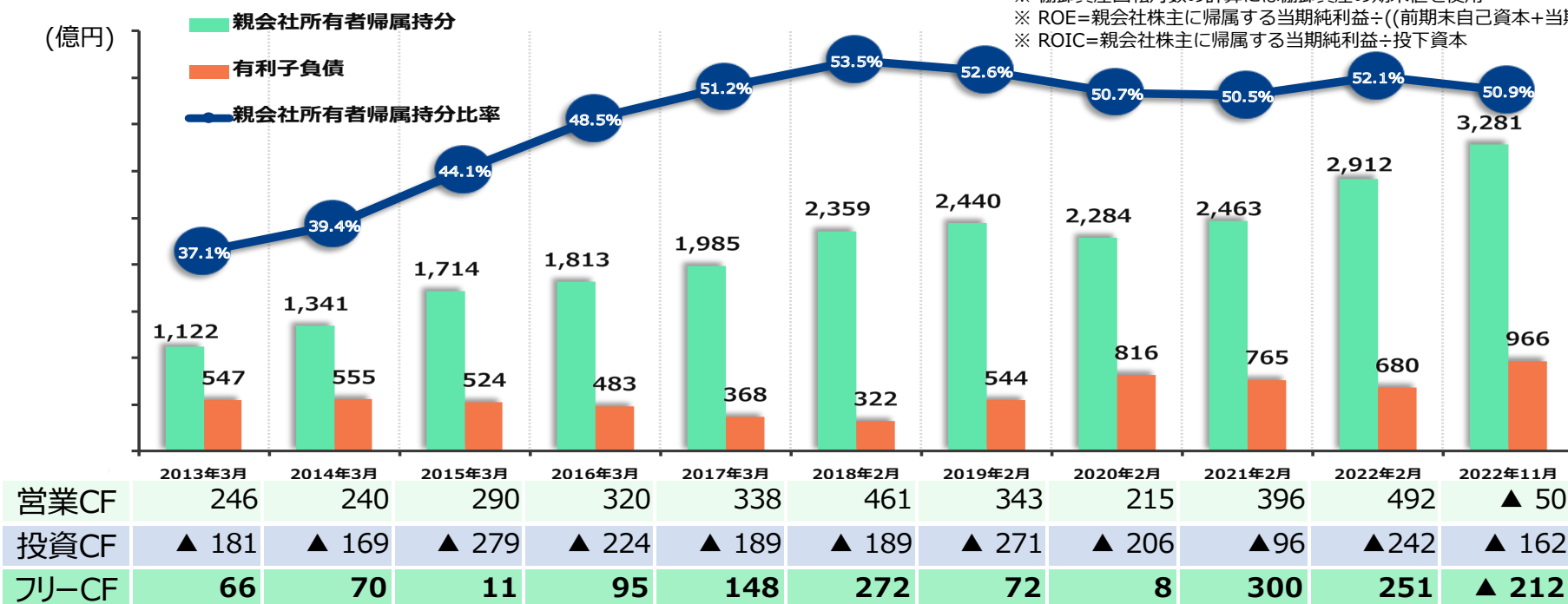
2022年11月30日時点			
➢ 親会社所有者帰属持分比率	50.9%	➢ 棚卸資産	1,813億円
➢ 親会社所有者帰属持分	3,281億円	(回転月数)	(3.8ヶ月)
➢ 有利子負債	966億円		
➢ D/Eレシオ	0.29		
(ネットD/Eレシオ)	0.17		

※ 有利子負債はリース債務を含む

※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用

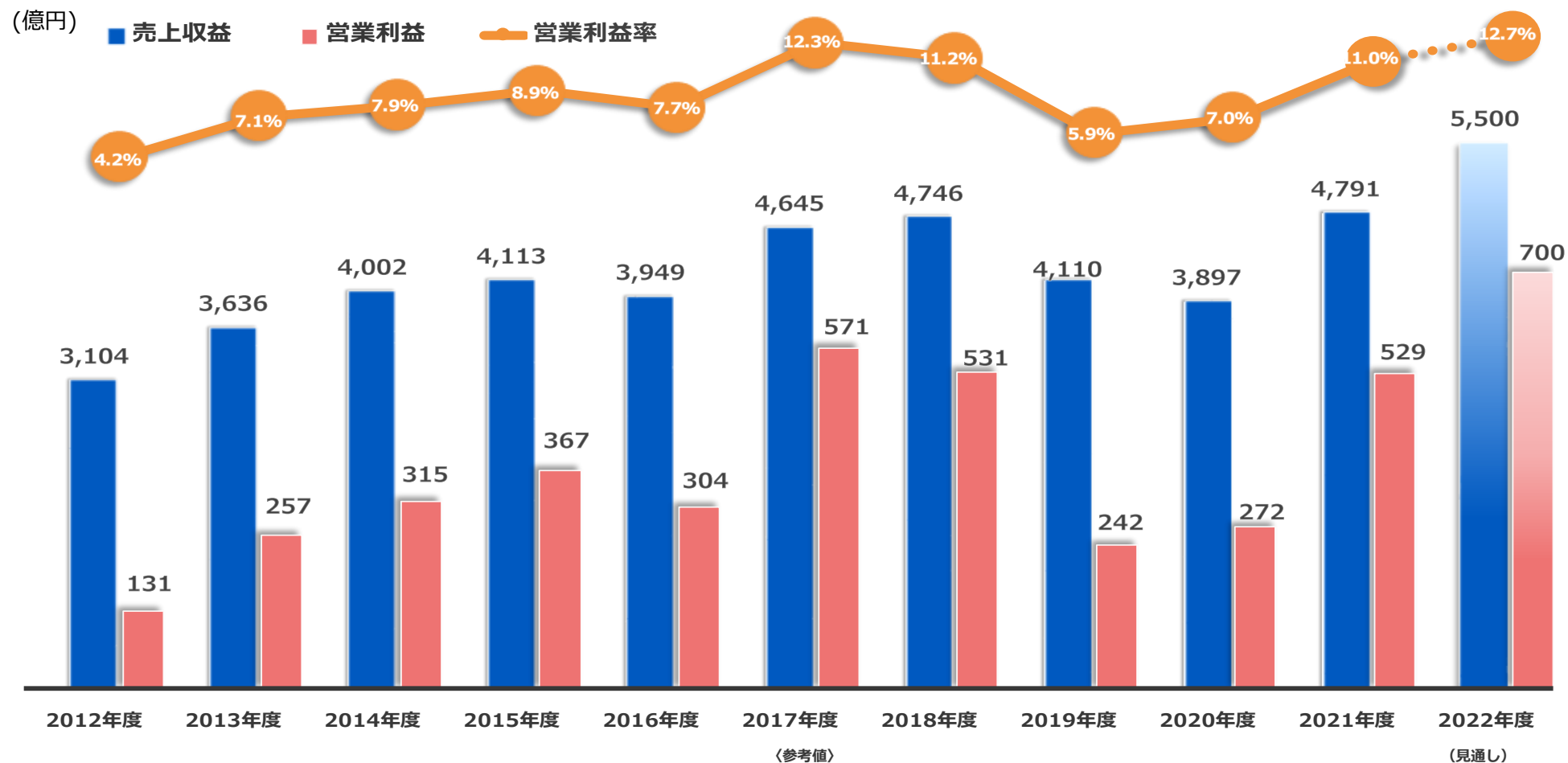
※ ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷((前期末自己資本+当期末自己資本)÷2)

※ ROIC=親会社株主に帰属する当期純利益÷投下資本



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

売上収益・営業利益推移（2012年度～2022年度見通し）



Challenge
100

Realize 100

Dash 25

Challenge 25 Plus

中期経営計画

[注1.] 2017年度までのデータは日本基準にて記載

[注2.] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期売上収益推移

セグメント別

(億円)

1,600

1,400

1,200

1,000

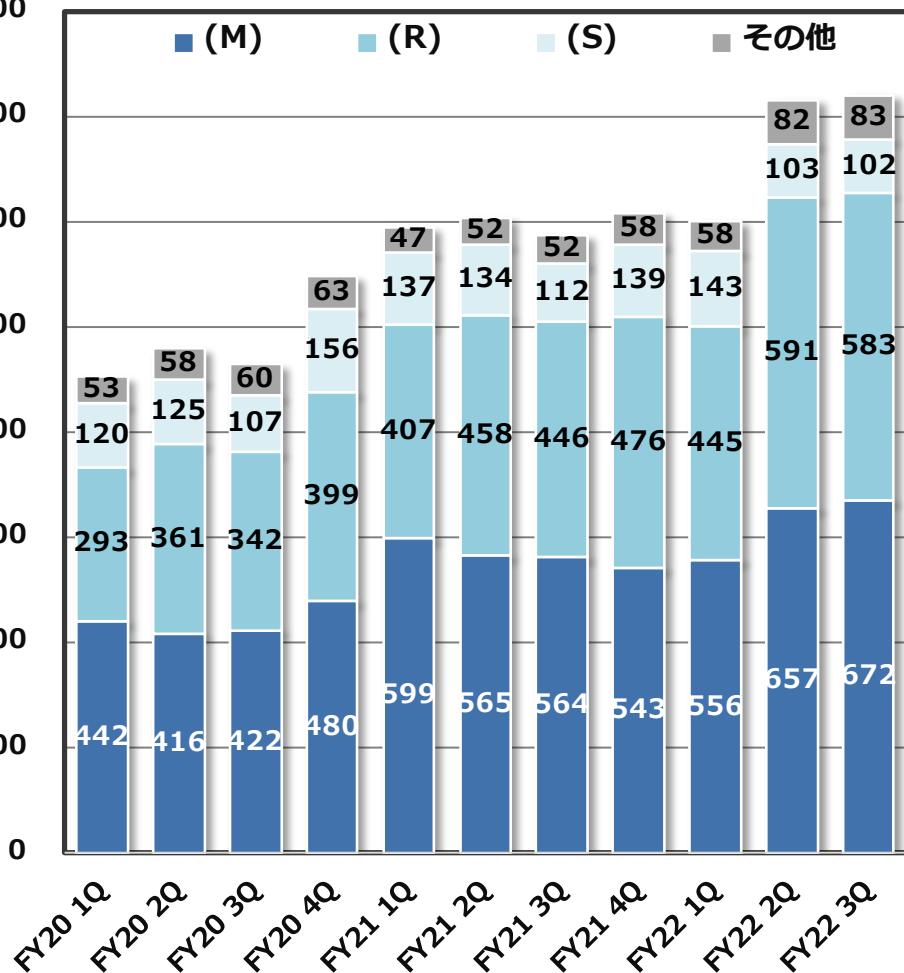
800

600

400

200

0



(億円)

1,600

1,400

1,200

1,000

800

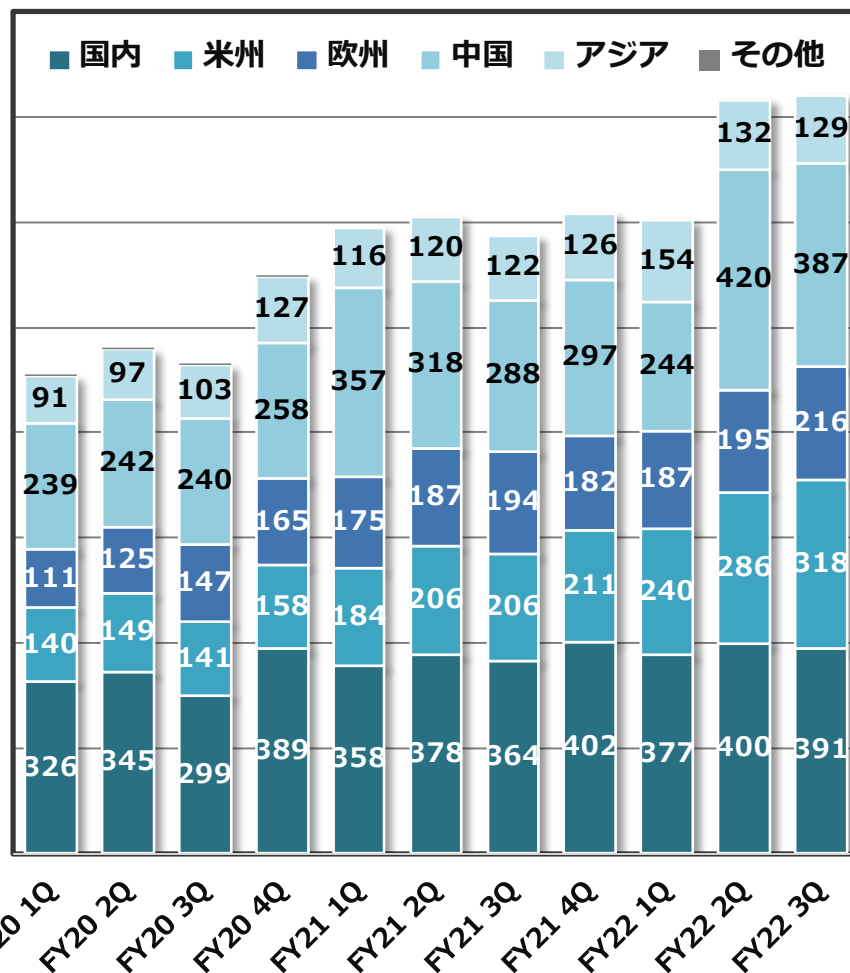
600

400

200

0

所在地別



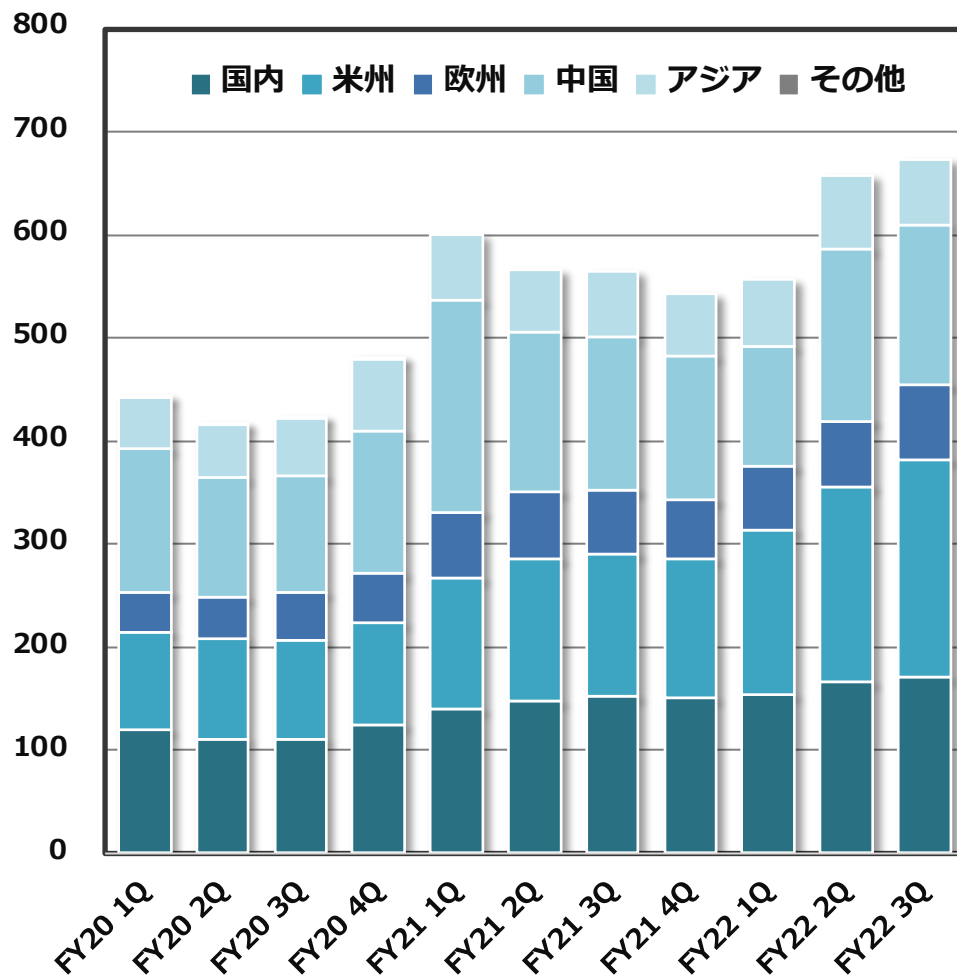
[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

[注.] 所在地別情報のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

四半期売上収益推移

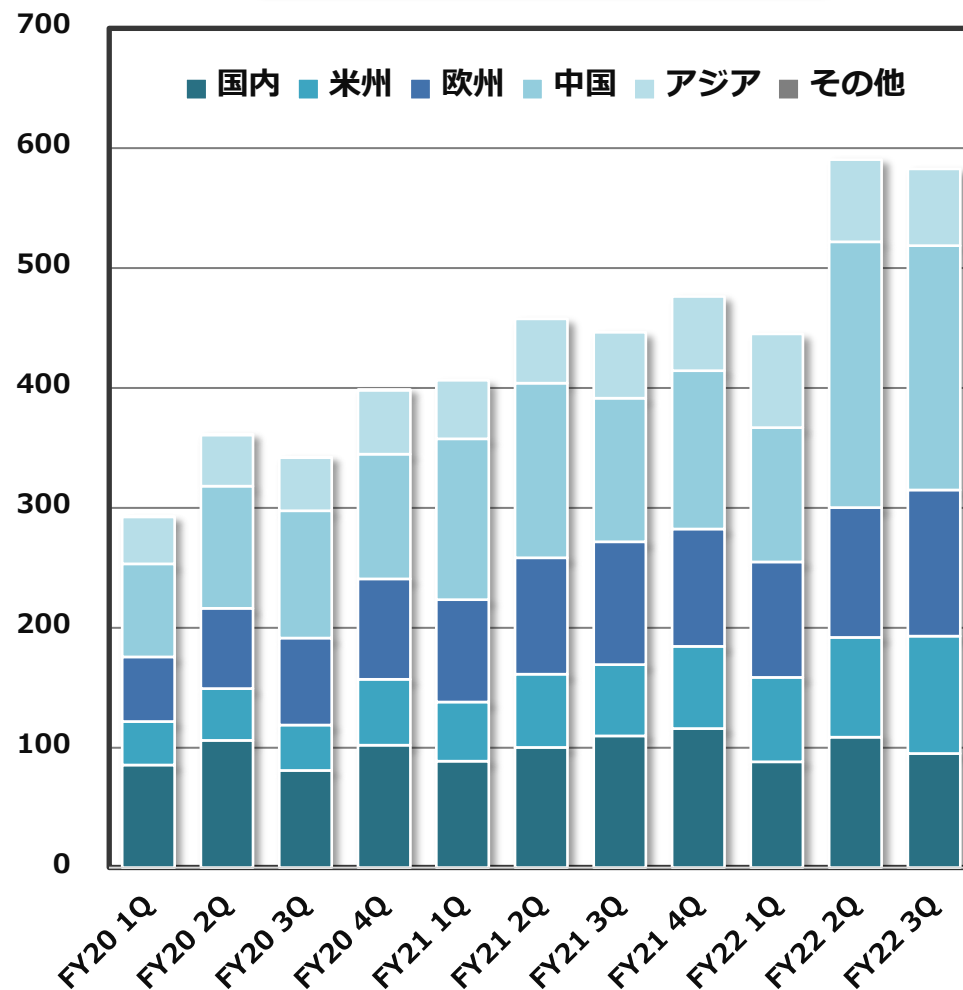
モーションコントロール

(億円)



ロボット

(億円)

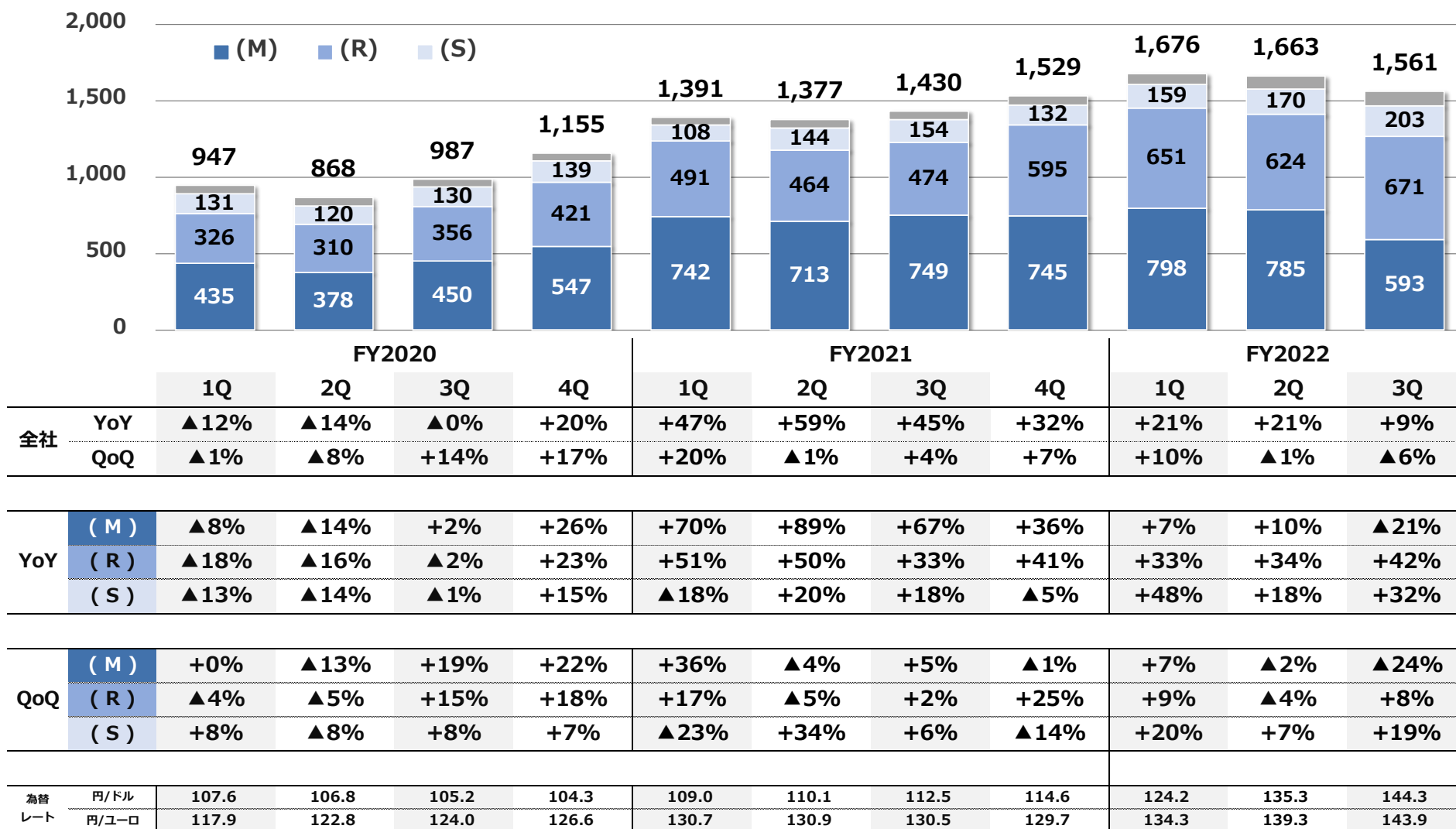


[注.] 地域別売上収益のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

四半期受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用

（単位：億円）

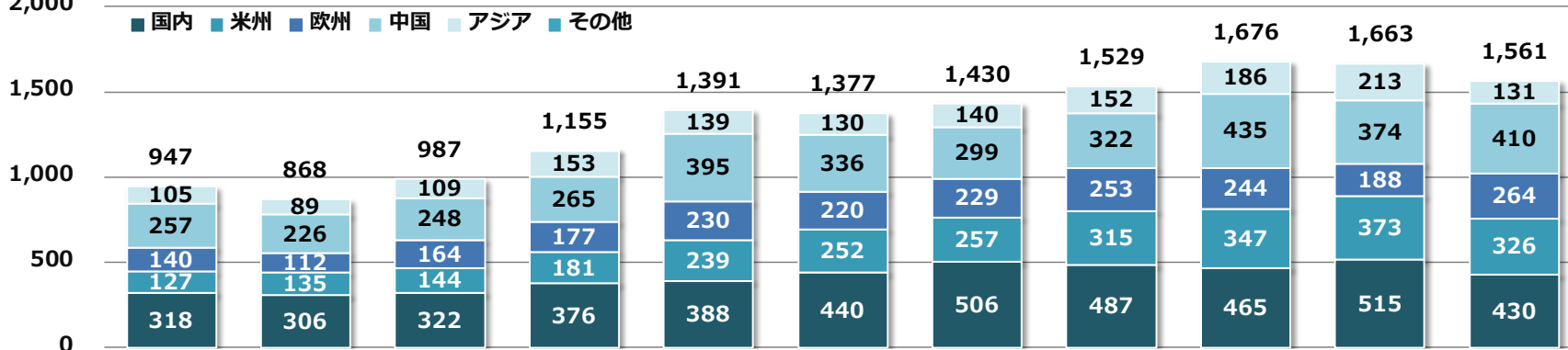


[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用

（単位：億円） 2,000



FY2020					FY2021				FY2022		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
Total YoY	▲12%	▲14%	▲0%	+20%	+47%	+59%	+45%	+32%	+21%	+21%	+9%
Total QoQ	▲1%	▲8%	+14%	+17%	+20%	▲1%	+4%	+7%	+10%	▲1%	▲6%

YoY	国内	▲3%	▲20%	▲11%	+1%	+22%	+44%	+57%	+30%	+20%	+17%	▲15%
	米州	▲28%	▲28%	▲16%	+1%	+88%	+87%	+78%	+74%	+45%	+48%	+27%
	欧州	▲27%	▲11%	+2%	+39%	+64%	+96%	+40%	+43%	+6%	▲15%	+15%
	中国	▲1%	+13%	+28%	+62%	+54%	+48%	+20%	+21%	+10%	+12%	+37%
	アジア	▲12%	▲21%	+8%	+31%	+32%	+46%	+29%	▲1%	+34%	+64%	▲6%

QoQ	国内	▲15%	▲4%	+5%	+17%	+3%	+13%	+15%	▲4%	▲5%	+11%	▲16%
	米州	▲29%	+6%	+7%	+26%	+32%	+5%	+2%	+23%	+10%	+8%	▲13%
	欧州	+10%	▲20%	+46%	+8%	+30%	▲4%	+4%	+10%	▲4%	▲23%	+41%
	中国	+57%	▲12%	+10%	+7%	+49%	▲15%	▲11%	+8%	+35%	▲14%	+10%
	アジア	▲10%	▲15%	+22%	+41%	▲9%	▲6%	+8%	+9%	+22%	+15%	▲39%

[注.] 地域別受注のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

YASKAWA